

二酸化窒素の濃度分布も仙台都市圏、石巻圏が高く、二酸化硫黄とはほぼ同様の傾向にあるが、自動車排出ガスの影響で都市部及び幹線道路周辺部がやや高い濃度となっている。

メッシュ別の全県域における1時間値の年平均値は、二酸化硫黄は0.002 ppm、二酸化窒素は0.003 ppmとなっている。

なお、別に添付している「二酸化硫黄濃度現況分布図」及び「二酸化窒素濃度現況分布図」は、昭和52年度における環境濃度の現況を8段階に区分して示したものである。

2. 将来予測

(1) 発生源

昭和65年度における硫黄酸化物、窒素酸化物の年間排出量は、各種資料に基づく推計結果によると、県全域でそれぞれ33,260トン、48,867トンになるものと予測される。硫黄酸化物排出量は、昭和52年度の1.68倍の伸びとなり、仙台湾公害防止計画地域での排出量は28,778トンとなり、県全域の排出量の85%を占めるものと予測される。窒素酸化物の発生源別排出量は、昭和52年度に比較すると工場・事業場1.71倍、民生（家庭）1.27倍、船舶2.62倍の伸びになるものと予測されるが、自動車からの排出量は、自動車排出ガス規制の効果により、昭和52年度より減少するものと予測される。

発生源別硫黄酸化物、窒素酸化物排出量調（昭和65年度）

物質別 発生源別	硫 黄 酸 化 物			窒 素 酸 化 物				
	t/年	伸び率(65/52)	Nm ³ /時	t/年	%	伸び率(65/52)	Nm ³ /時	%
工場・事業場	33,260	1.68	1,332	25,139	51.5	1.71	1,395	51.5
民 生	—	—	—	405	0.8	1.27	23	0.8
自 動 車	—	—	—	18,378	37.6	0.94	1,022	37.6
船 舶	—	—	—	4,945	10.1	2.62	275	10.1
計	33,260	1.68	1,332	48,867	100.0	1.34	2,715	100.0

広域市町村圏別では、各圏域とも増加するものと予測され、特に、仙台都市圏の増加量が大い。硫黄酸化物では仙南圏、窒素酸化物では石巻圏及び仙台都市圏の伸び率が大きくなるものと予測される。